

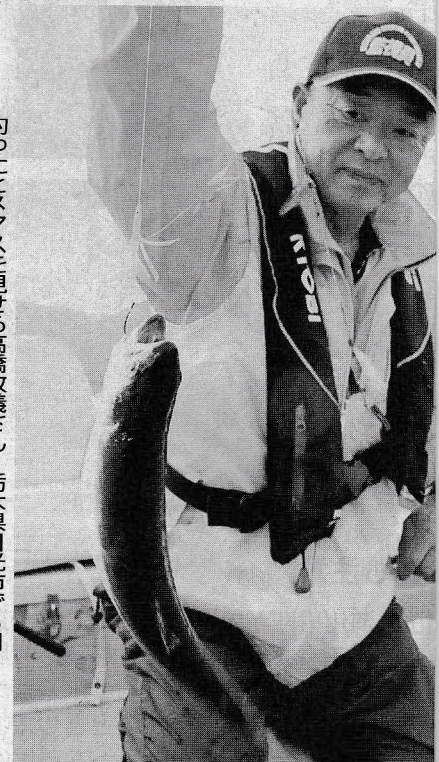
なりたそのみ
NPO法人accommon理事長 成田礎野美さん(45)



栃木 中禅寺湖のヒメマス

ケ」の湖沼残留型。日本では北海道の阿寒湖などに自然分布し、環境省は絶滅危惧種に指定している。中禅寺湖のヒメマスは1906年、北海道から移入された。産卵期に採取した卵を保護下でふ化させ、成長してから湖に放流することで生存率を上げている。中禅寺湖での釣りは、船にさおを固定して歩くような速さで移動する「ヒメマスストロリング」という方法が主流。

持ちり



釣ったヒメマスを見せる高橋政義さん―栃木県日光市で6月

いわて 人模様

ひとまよう

発達障害のある子ども・大人とその家族を支援するNPO法人accommon(アコモモン、盛岡市)を今春に設立。学習障害(LD)や注意欠陥多動性障害(ADHD)など発達障害への理解を深める勉強会などを開き、情報共有の場を提供している。「同じ境遇だと気持ちも楽になる。全員で見守って子どもを育てていきたい」。発達障害の診断の有無は問わず、集団生活が苦手な子どもと保護者

を中心活動する。法人名には、発達障害へのアコモモーション(配慮・適応)がコモモン(共通)な社会に、との願いを込めた。活動のきっかけは2010年。夫の仕事の都合で埼玉から京都に移った際、当時小学4年のわが子が環境の変化に適応できなかったことだった。クラスになじめず、ゲームに依存する毎日。担任の勧めで、わが子と一緒に病院を訪れると、発達障害と診断された。

わが子はその後、通常学級に在籍しながら一部の授業を別室で受ける「通級指導」の対象になった。しかしそれは学校生活だけの配慮に過ぎない。長い目で見て、子どもが自分を受け入れられるような環境をつくりたい。12年12月、同じ悩みを持つ友人らと前身のNPO法人を作った。アコモモンは、再び夫の転勤で盛岡へ移住後の14年12月、京都のNPO法人の盛岡支部として活動を開始。新たなNPO法人として再スタートを切るまでの間には、岩手大と共同で発達障害児の学習支援アプリを開発したり、発達障害者を支援する県内の公的機関と連携を始めた。現在、15家族ほどが活動に参加。活動を始めた頃に比べ、保護者が積極的に意見を言うようになったという。「一人で悩みを抱える必要はない。全員で学び、相談できる場所をつくっていったら」

【小鍛治孝志】

戻り「キヤッチ・アング」作りのヒメマス料理をド・リリース」だけがごちそうになった。ササメ、持ち帰りができるモンピンクの引き締まなかった。ヒメマス、まった身から優しい甘みは昨年、県のモニタリング検査で放射性物質の数が基準を安定しは「釣ってよし、見て下回り、今年4月かよし、食べてよし」ら持ち帰りが可能になった。という鹿間さんの言葉の意味を実感しながら、「ヒメマスは中禅寺湖の目玉。解禁は待ちりとかみしめた。」